

故郷の妻へ、戦地ビルマからの手紙②

会期：令和7年8月1日（金）～31日（日）

久留米市立六ツ門図書館展示コーナー

●8月展示：昭和19(1944)年1月～4月

元旦付けの手紙で、ビルマにいる肇さんは田主丸の梅子さんに宛てて「新春を寿ぐことが出来た」「門松にも梅の代りに桜を差して」と伝えます(No.13)。1月のビルマは桜の季節で、9日・12日付けの手紙にもそのことに触れながら、内地の桜に思いを馳せています(No.14・15)。3月の終わり頃からマンゴーの時期に入ると、その風景の一コマ一コマを俳句に詠んで送りました(No.21・23)。

一方、戦況は前年12月に米英のビルマ奪回作戦が開始され、昭和19年2月にはマーシャル諸島の日本守備隊が全滅、3月に日本軍はインパール作戦を開始します。これに伴い、戦いに対する「覚悟」の言葉が増え、厳しい戦況や危険な環境を示唆する文章も見られるようになります。(No.18「マーシャル群島の玉砕」、No.19「幸い小生熱病に罹らずに居る」)。

●会期と内容

本展では、令和5年11月29日付けで本市が寄贈を受けました「宮原美奈子氏寄贈資料」のうち、田主丸出身の医師で戦地にいる西原肇さん(1915～45)から、故郷の妻梅子さんに宛てた手紙を中心に、軍事郵便35通を3回に分けて初公開します。

①令和7年7月3日(木)～29日(火)

：昭和19(1944)年1月～4月／No.1～12

②令和7年8月1日(金)～31日(日)

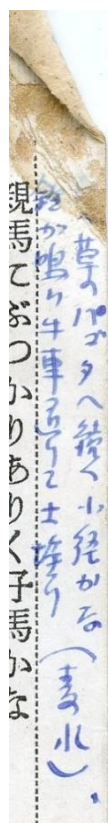
：昭和19(1944)年1月～4月／No.13～24

③令和7年9月2日(火)～30日(火)

：昭和19(1944)年5月～12月／No.25～35

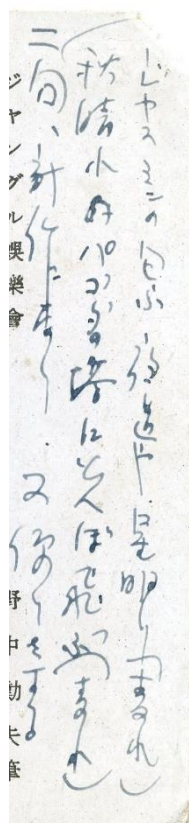
●ビルマの風景を詠む

現存する肇さんの軍事郵便47通のうち10通に俳句19句と短歌1首が記されています。号は「麦水」と名乗りました。



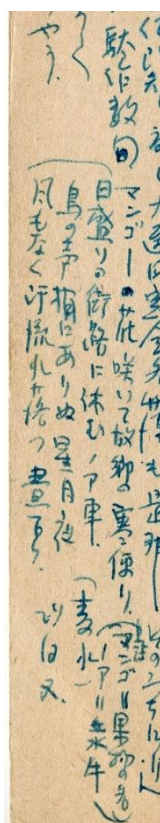
【No.4】

□草のパゴダへ続く小径かな
鈴が鳴り牛車通って土埃り



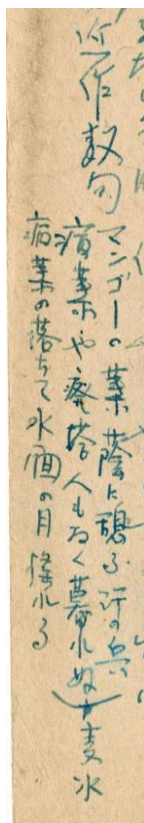
【No.8】

ジャスミンの匂ふ夜道や星明り
秋晴れのパゴダの塔にとんぼ飛ぶ
*パゴダ＝仏塔



【No.21】

日盛りの街路に休むノア車
鳥の声梢もありぬ星月夜
風もなく汗流れ落つ晝下り
*ノア＝水牛



【No.23】

マンゴーの葉陰に憩ふ汗の兵
病葉や廃塔人もなく暮れぬ
病葉の落ちて水面の月揺れる